

# 令和4年度第2回史跡根城跡整備活用検討委員会 議事要旨

日 時 令和5年2月24日（金）10：00～12：00

場 所 八戸市博物館 2F 体験学習室

## 委員

出席5名 北野博司副委員長 熊谷隆次委員 倉原宗孝委員 宮野則彦委員  
石橋充志委員

欠席1名 工藤竹久委員長

## 指導・助言

市原富士夫主任文化財調査官（文化庁文化財第二課）

岩田安之文化財保護主幹（青森県教育委員会文化財保護課）

## 事務局

博物館 小保内館長 下村副館長 市川主査 中村専門員

社会教育課 杉山副参事

有限会社ウッドサークル 中田 曾根田 有井

## 次第

1. 開会
2. 会議
  - (1) 令和4年度事業報告及び令和5年度事業計画
  - (2) 史跡根城跡防災設備改修実施設計について
  - (3) 史跡根城跡本丸主殿耐震診断について
  - (4) 史跡根城跡環境整備事業のスケジュールについて
  - (5) その他
3. 閉会

## 会議資料

八戸市史跡根城跡整備活用検討委員会 委員名簿

八戸市史跡根城跡整備活用検討委員会 席図

八戸市博物館条例抜粋・八戸市史跡根城跡整備活用検討委員会規則

別紙1 令和4年度事業報告及び令和5年度事業報告

別紙2 史跡根城跡防災設備改修実施設計資料

別紙3 史跡根城跡本丸主殿耐震診断資料

別紙4 史跡根城跡第2次環境整備事業整備スケジュール変更案

## (1) 令和4年度事業報告及び令和5年度事業計画について

### ・令和4年度事業報告

活用 小学生のための城歩き講座「お城へ行こう！」

- 倉原委員 : 城歩き講座「お城へ行こう！」の参加者は主に八戸市の方でしょうか。
- ◎事務局 : 八戸市・三戸町両地区の小学生が参加しました。
- 宮野委員 : シャトルバスは一往復だけ運行したのでしょうか。シャトルバスを準備した割には参加者が少ないように感じます。事前にどのような宣伝をされたのでしょうか。
- ◎事務局 : 事前に八戸市・三戸町の広報誌で宣伝をしました。他にも館ホームページやFacebookなどでも告知しました。
- 参加者が少なかったことについては、土曜日に開催したことが関係していると考えています。三戸町担当者によると、同町では土曜日よりも日曜日開催のイベントの方が参加者が集まる傾向があるそうです。次年度は三戸町担当者のご提案を踏まえ、7月の日曜日に開催できるように調整しています。
- シャトルバスの運行は一往復です。
- 北野委員 : 来年度も継続する事業のようなので、運営を工夫してみてください。
- ◎事務局 : 承知しました。

整備 本丸復原建物改修工事

- 北野委員 : 納屋3<sup>たたき</sup>三和土改修工事について質問です。九本の柱のうち、八本の柱が土中で腐朽していたというご説明でしたが、これは工事前に予想できたことなのではないでしょうか。腐朽の原因を教えてください。
- ◎事務局 : 設計に先立ち、昨年度末に柱の地際2ヶ所を掘削し、腐朽の有無を調査しました。納屋3は正方形の掘方の伏屋式の堅穴建物で、中央に一本、側廻りに八本の柱を持つ柱配置です。このうち側廻りの柱八本の外面半分程度は、腰壁三和土に埋まっています。掘削調査を行ったのは、中央の柱の西面地際と、東側側廻りの柱の西面地際です。
- 前者は腐朽していませんでした。九本の柱のうち八本が腐朽していたとお話ししましたが、無事だった一本はこの中央の柱です。次に東側側廻り柱の西面地際を掘削しましたが、ここも腐朽していませんでした。中央の柱にも側廻りの柱にも腐朽が見られなかったため、案の通りの内容で工事が出来ると判断しました。
- しかし、実際に腰壁三和土を解体すると、側廻り柱の外面部分、つまり腰壁三和土に埋まっている半面が腐朽していることが明らかになりました。
- 北野委員 : 今後の対応を教えてください。

◎事務局：腐朽部分は根継<sup>ねつき</sup>し、ボルトなどで緊結します。また、根継部分はちょうど地際の高さに相当しますので、腐朽対応のために銅板を巻く予定でした。この銅板を巻くことによって、根継部分を隠すことができると考えています。

○北野委員：現状では柱の地際に銅板巻きはしていなかったのでしょうか。

◎事務局：当初設計では銅板巻きをしていませんでした。

残工事は、次年度の予算の執行状況を見ながら、直近の機会で行いたいと考えています。

#### 整備 展示改修検討ワーキング会議

○北野委員：熊谷委員は展示改修検討ワーキング会議に出席されていますが、何か課題は感じますか。

○熊谷委員：非常に発展性がある会議だと感じています。参加されている先生方のレベルも高く、とても勉強になります。議論の中での発見も多く、かなり良い成果が得られていると感じています。

#### 活用 史跡根城跡活用ワーキング会議

○北野委員：倉原委員は活用ワーキング会議に継続して出席されていますが、何か課題は感じますか。

○倉原委員：良い雰囲気できていると感じています。ただ、検討のメニューが多いので、これをどう継続していくのかというところが今後の課題になってくるように思います。また、色々やってみるのも良いとは思いますが、事務局にあまり負担の無い形で持続していける内容を模索していかなければならないなども感じています。

○北野委員：この活用に関するワーキング会議は、根城の特色ともいえるような事業です。今後も継続していただいて、いろんなメニューに発展させていただきたいと思います。また、倉原先生のお話しにもあったように、事務局に無理が無いように進めて下さい。

### ・令和5年度事業計画

#### 活用 小学生のための城歩き講座「お城へ行こう！」

○熊谷委員：城歩き講座「お城へ行こう！」について、質問させて下さい。私は三戸城の委員も引き受けています。根城と三戸城の間には様々な関係があります。それぞれ切り離して解説をするのではなく、二つのお城や城主の関係性を紹介できるような案内を検討していただきたいです。

例えば三戸城の案内をするならば、三戸南部氏の三戸城の使用期間と根城南部氏

の根城の使用期間が同時期であることや、三戸城下には根城南部氏の屋敷があったことなども関連付けて紹介していただけるとおもしろいと思います。

◎事務局：このイベントは人気があります。片方の回にのみ参加する方もいれば、両方の回に参加される方もいます。両方の回に参加される方にとっては、それぞれのお城のコントラストや関係性を知ることが出来るとより深い歴史理解に繋がります。三戸町とも相談させていただいて、次年度以降の内容を検討します。

○北野委員：このイベントは親子で参加される人が多いのでしょうか。それとも子ども達だけが参加するという形式なのでしょうか。

◎事務局：親子での参加を基本としています。

○北野委員：先程も話題に上がりましたが、どのようにイベントの告知をしていくのが課題になってくるのかもしれませんが、上手く運営をしている自治体では、お城の見学を学校の授業に組み込んでいます。ぜひ役所内の学校教育部門とも相談して、学校との連携も検討してみてください。その方が継続性や効果を得られるかもしれません。

◎事務局：イベントの告知についてですが、チラシは市内の学校に全校配布しています。また、今後は学校関係課と連携がとれるように検討していきます。

○北野委員：このイベントに限らずなのですが、事業の告知や実施成果報告は、どのような形で発信されているのでしょうか。

◎事務局：イベントの告知や開催報告、あるいは復原建物の改修工事の実施などについては、館のホームページやSNSを使って、都度告知しております。

○北野委員：次回以降、事業報告を行う際は、情報発信の仕方についても触れていただきたいです。その情報があると、この委員会でもまたいろいろな提案が出来るようになると思います。

◎事務局：承知しました。

## **(2) 史跡根城跡防災設備改修実施設計について**

○北野委員：昨年度の計画よりも、だいぶコンパクトになりましたね。そのうえで、案を二槽式から一槽式に変えたことによって、色々なメリットも得られましたし、経費も抑えられるという報告でした。

別紙2・18ページの断面図についてです。新規に水槽を設置するために掘削する範囲は、遺構保護盛土内に収まるのでしょうか。

◎事務局：平坦面・斜面部分とも掘削範囲は遺構保護盛土内です。自然地形には到達しません。

○北野委員：分かりました。今ご説明いただいた内容で図を作り直していただければ

ばと思います。

他に意見がなければ、事務局案の内容で承認ということによろしいでしょうか。  
⇒事務局案が承認された。

### (3) 史跡根城跡本丸主殿耐震診断について

改修案について

○北野委員：前回会議の意見を反映し、クライテリア（判断基準）についても再検討していただきました。また、これに基づいて現状の耐震性能の診断と、補強案の作成・評価までしていただきました。かなり入念な検討をしていただいたようですが、なにか質問・意見がありましたらお願いします。

○宮野委員：改修案の工法について質問させてください。南北棟の補強は小屋裏に鉄筋ブレースを入れるというお話しでしたが、東西棟と同じく構造用合板による補強としなかったのはなぜなのでしょう。

また、なぜ東西棟にのみ構造用合板が貼られていたのでしょうか。

◎事務局：まず、なぜ東西棟にのみ構造用合板が貼られていたのか、というご質問についてです。これは東西棟と南北棟の天井の仕様が違うからだと考えています。東西棟の天井は簀子天井です。この天井は、普通なら天井板が入るところに簀子を入れるという天井なのですが、これはそのままだと小屋裏の埃が落ちてきてしまいます。これを防ぐために見え隠れ部分に構造用合板を張ったのだらうと考えています。南北棟（二ノ間と広間）は部屋のランクが高いという設定なので、天井は竿縁天井になっています。この天井は普通に天井板がありますので埃対策をする必要がありません。このような違いがあるので、当初設計では南北棟に合板を入れなかったのではないかと考えています。

次に、なぜ南北棟のみを鉄筋ブレース補強としたのかについてです。これは改修案作成をお願いしたコンサルタントの意見によります。鉄筋ブレースの方が工事しやすいだろうという意見でした。

○宮野委員：東西棟と南北棟で補強方法が変わると硬度の違いのようなものが生まれますよね。それによってなにか悪影響が出るということはないのでしょうか。

◎事務局：今回は時刻歴応答解析という手法で性能評価を行いました。この手法は耐震要素による立体フレームのモデルを作って、このフレームが各所でどのように挙動するのかを検討する手法です。ご指摘の通り、各所で挙動は異なるようになるのですが、それを反映した数値でも数値目標は達成できるという診断結果でした。

○北野委員：ブレースを取り付ける際に柱を痛めるということはありませんか。

◎事務局：懐も広いので、問題はないと考えます。

○北野委員 : ブレースは重さもあると思います。また、主殿の一部屋は結構大きいですよね。このぐらいのスパンにブレースを入れるというのは、一般的に行うのでしょうか。

◎事務局 : 他にも事例はあります。また、一部屋にブレースを一つだけ入れるという手法の他に、分割して入れるなど方法もあります。

○北野委員 : 天井板があるため、ブレースは見えませんよね。

◎事務局 : 見えません。

#### 現状調査の成果

○倉原委員 : 現状調査を行った結果、当初図面には書かれていない合板の存在がわかったということなののでしょうか。

◎事務局 : 当初図面には古建築・文化財建築としての納まりだけが描かれているようです。例えば、主殿板屋根の谷部分には雨漏り対策のために銅板が入っていますが、これなども当初図面には描かれていません。

○倉原委員 : 今回の調査で、他にも当初図面と違う箇所を見つけることが出来ましたか。

◎事務局 : 今回の調査でわかったのは東西棟小屋裏の合板だけです。

#### 改修案コスト

○北野委員 : 改修案として案1と案2がありますが、費用の記載がありません。両案でコストはどの程度違うのでしょうか。

◎事務局 : 費用は現在積算中です。

#### 改修案について

○北野委員 : 根城の主殿は重要文化財建造物ではありません。ですから、より安全性を高めるということだけを考えるならば、より強度が増す案2を選択するという考え方もあるのかもしれませんが。これについてはどのように考えていらっしゃいますか。

◎事務局 : 案2の方がより補強を行っているので、当然数値は良化します。ただこれは過剰な補強なのではないかと考えました。案1は見え隠れ部分のみの補強で済みますが、案2は化粧部分の外観も変わります。当初復原時に検討した板壁の仕様など見た目が変わってしまうのは可能ならば避けたいです。

また、案2を採用し、新規に板壁を貼ったとしても、古色塗りをして現状の建物の色に合わせることは難しいです。仮に、改修直後は色を合わせることもできたとしても、その後の退色でどんどん差が生じて違和感がでます。

そういう意味でも見え隠れ部分に収まる内容で補強を行う案1の方がより良い選択であろうと考えました。

○北野委員：補強はあえて見える部分でやるという考え方もあります。補強が見えることによって、見学者に安心感を与える効果もありますからね。

ただ、今回の根城の場合は、案2を採用すると大きく見た目も変わります、また案2を採用しても大きく数値が向上するわけでもないようです。だとすれば、私も見え隠れ部分の補強で済む案1が良いように思います。

#### 温湿度の計測

○宮野委員：この建物は中に人が居住しているわけではないので、問題が無いと思いますが、小屋裏にブレースを入れると結露する心配はないでしょうか。仮に結露が発生すると、屋根裏に水滴が垂れて腐朽を助長する可能性があります。主殿の温度や湿度の測定はしているのでしょうか。

◎事務局：温湿度の測定はしていません。

結露の発生についてですが、壁も薄い建物ですし、小屋裏も隙間が多いので、体感としては冬は内外の気温差を殆ど感じません。夏になると小屋裏は相当暑いですが、室内はさほど暑くはなりません。

また、主殿内にはいろいろな素材の復原展示物がありますが、年間を通してこれらが結露したという報告はありません。

○宮野委員：屋根に雪が積もった状態では、小屋裏の湿度が高くなるのではないのでしょうか。

◎事務局：お話しをうかがうまで、結露の発生という発想がありませんでした。今後の改修案を考えるうえでも、温湿度の調査は行いたいと思います。

○宮野委員：ブレースに断熱材を巻くとか、水道管の凍結対策用のものを巻くとかでも良いので、なにか対策はしておいた方がより安全なのではないかと思いました。

○北野委員：寒冷地ですから結露が生じることがあるかもしれません。既存の施工例も調べていただいて、対策を考えていただければと思います。

また、温度・湿度は通年で測定しておいた方が良いでしょう。これだけの復原建物があるのに、これまで測定をしていないというのが驚きでした。感覚的なものではなく、データロガーを置いて、数値として把握するのが重要です。

◎事務局：承知しました。

○北野委員：他に意見が無いようでしたら、補強案は案1で承認ということでしょうか。

⇒補強案1が承認された。

#### (4) 史跡根城跡環境整備事業のスケジュールについて

今後の整備スケジュール

○北野委員：防災設備工事を行うということもあり、今後工事によっては1から2年予定よりも遅れるということでしょうか。

◎事務局：その通りです。当初案では主殿の改修工事を令和7年度に着手する予定でしたが、これが1年遅れます。旧案では基本設計を行わず、実施設計のみを行うという内容になっていました。これを改め、基本設計を行った上で、実施設計を行うべきだと考え直しました。

ただ、主殿の劣化状況を鑑みると、主殿の屋根替え工事はあまり先送りすることが出来ないと認識しています。主殿屋根替え工事は、可能な限り遅らせずに工事着手できるよう検討しています。

○北野委員：国庫補助金も全国的に厳しい状況だとうかがっています。文化庁の方からも、このスケジュール案についてコメントをお願いします。

○文化庁：先ほどのお話しにもありましたが、方針としては主殿の工事を優先していただきたいと考えています。また、その検討の内容ですが、主殿の耐震性能や機能性を向上させるような検討とは別に、当初復原時に行った歴史的な検討の再検証もしていただきたいと考えています。調査などで分かった新しい情報などがあるようでしたら、それを今回の建築や展示の改修に反映していただきたいです。

また、これは今後の話しになりますが、例えば平面表示などについても、現状のままの仕様で改修を行うのではなくて、より適切な内容と展示手法を検証して、改修を行っていただきたいです。

○北野委員：第2次整備の大きな目標として、これまでの調査・整備・活用の中で新たにわかったことを反映させるという内容があると思います。これも踏まえて計画を進めていただければと思います。

別紙4の表には令和10年度以降の記載がありません。これは何か理由があるのでしょうか。

◎事務局：本来であれば、中期計画の最終年である令和11年までを記載すべきですが、ここでは大きな事業である主殿の展示改修が終わる令和10年までをお示ししました。

○北野委員：文化庁から見て、この計画に意見はありますか。

○文化庁：優先順位としてはこれで良いと思います。ただ、今後の予算の付き方によって状況が変わる可能性があります。詳しい内容については今後精査させていただければと思います。



## 地域住民との連携

○北野委員：石橋委員、この計画にある通り、今後も根城の整備は進んでいくのですが、地元の方々の反応はどうでしょうか。

○石橋委員：園路改修が後回しになっているのが気になりました。ただ、復原建物の安全面などを考えると、園路改修の優先順位が下になってしまっても仕方が無いのかなとも思いました。

今、地域では「サケ活」という活動をしています。サケは4年すると生まれた場所に戻ってきます。そのような感じで、子ども達が他の場所に出ていったとしても、育った地域のことを考えてほしいという活動です。そしてその活動をしていくうえで、重要なのが史跡根城であると感じています。根城を知ることによって根城地域だけではなく、広く八戸を知ることにもなります。ただ、現在は地域と根城との関係性が薄いように感じています。地域では今後、学校との連携も検討しています。

このような状況ですので、ぜひ根城に来場しやすい環境の整備についてもご配慮いただきたいと思います。

○文化庁：おっしゃる通りだと思います。その目的のためにも事務局と一っしょに今後の整備について検討をさせていただきます。

根城は地元のみなさんの熱い思いによって復原整備が進められた史跡だと聞いています。このような経緯も見つめて、今後もしっかりとやっていきたいと思っています。

○北野委員：根城は地域の方々に支えられてここまで来ています。今後の活用事業についても、より地域と連携するような企画をお互いに出し合っって様々なことが出来る良いなと思います。

他に意見が無いようでしたらば、このスケジュール案は承認ということよろしいでしょうか。

⇒スケジュール案が承認された。

以上